



たづがね (鵲が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子

2学期スタート【より高みを目指し、達成感・成就感を】

9月2日(月)長い44日間の夏休みを過ごし、一回りたくましくなった児童が学校へ戻ってきました。1学期は【学習・生活のルールづくり】および【学習・生活の習慣化】として学校生活を過ごしてきました。9月は引き続き【学習・生活の習慣化】を基底とし、1学期からの積み上げに注力していきます。2学期は学習や運動に適した時期であると言われていています。科学教室や妙成寺クイズラリーなど外部機関との連携や、運動会やマラソン大会などのスポーツ的な行事も計画されています。学童期は、様々な経験をすることが大切です。「地域とともにある学校」をキーワードに、保護者、地域、関係諸機関と連携・協働しながら、子どもの成長を促し、よりたくましい子どもの育成を図っていきたくと考えています。保護者・地域の皆様、2学期も本校の教育活動へのご理解・ご協力・ご支援をよろしくお願い致します。

【あいさつ】

1学期、児童に西北台小のいいところは?と尋ねると「あいさつです」と自信満々に答えてくれました。

先日 HP にてお知らせしました第2回学校関係者評価委員会での話題についてお伝えします。

「今年はあいさつが良くなったという肯定的な評価が高いが、実際に良くなっていますね。」と褒めていただいた一方で、地域の方へのあいさつができていない様子もあるようです。「震災後、能登方面には他地域からの方が結構入ってきており、顔見知りではない方へはあいさつができないのか」また、「知らない人には気をつけるという指導のためなのか」など意見が出されましたが、そうではないようでした。以前から住んでいて、子どもの顔を知っている方からの声だそうです。

あいさつは、相手に対して親愛や尊敬などの気持ちを示すための振る舞いである。その場面に適したあいさつ・礼にかなったあいさつは、相手と良好な関係を築ききっかけにもなり、人間関係を円滑にするための手がかりにもなる。あいさつは社会のあらゆる場面において基本的な礼儀・マナーとして重んじられる。(weblia 辞書より)

そう考えると、あいさつは、「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」だけ(狭義)ではなく、名前を呼ばれた時の返事「はい」や何かをしてもらったら「ありがとう」、失敗した時の「ごめんなさい」、など、あいさつを広い意味(広義)で捉え、指導していきたいと考えています。あいさつは対人関係におけるコミュニケーションで必要不可欠で大切にしたい言葉だと考えています。

私は、「本物のあいさつ」を児童に身に付けてほしいと願っています。私が思う「本物のあいさつ」とは、人、場所、時間などを選ばず自分から行うあいさつです。以前の学校だよりでも書きましたが、「良い習慣は身を助ける」の一つがあいさつだと考えています。コミュニケーションの第一歩、自分を表現する第一歩である「あいさつ」です。初対面の人となら、その後の人間関係にも影響してきます。

学校では、先あいさつを実践する指導を行っています。出会った人に自分から先にあいさつができる児童を育成したいと考えています。その人と顔見知りでなくても、これは「あいさつは防犯につながる」という考え方もあるからです(ある地域で実際にあった話です)。

この夏、公民館がクールシェルターとして開かれており、児童が図書室を利用していた時のことです。少し騒がしい様子があったため注意したそうです。その後は静かに利用していたそうです。帰り際にその児童は「騒いでしまって、ごめんなさい」と言って帰っていったそうです。館長さんはとても感銘を受けて、「素敵な子どもに育っている、家庭教育もしっかりしているのですね。」と嬉しそうにおっしゃっていました。私もすごく嬉しく心が温かく感じました。

ぜひご家庭でも、あいさつについて子どもと考えるいただき、よりよい実践ができるようにご協力をお願いします。

あいさつ (広義)

あいさつ (狭義)

- ・おはよう
- ・さようなら
- ・おやすみなさい
- ・いただきます
- ・ただいま
- ・こんにちは
- ・こんばんは
- ・おつかれさま
- ・いってらっしゃい
- ・おかえり

- ・はい (返事)
- ・ごめんなさい
- ・おめでとう
- ・どういたしまして
- ・ありがとう
- ・お願いします
- ・どうぞ
- など